

水質事故等における油種分析事例について

環境科学課 嶋田誠・井戸下風花・宮崎悦子

県内保健環境研究所合同発表会

福岡市では危機管理の一環として、油種の分析法を開発し、水質事故等に対応できる体制をとっている。油種分析は鉱物油を構成する化学物質の違いにより判別を行うが、この構成物質は世界情勢や条約等で変わることが想定される。そのため、油種分析を行うにあたっては、最新の情報、新たな標準物質の入手、現場の情報等状況に合わせた分析法の更新が必要となる。そこで、状況に応じて様々な構成物質を利用した油種分析の事例を紹介した。また、中高生向けとして、本分析法を利用した実験体験及び環境学習・啓発を行ったので、事例紹介を行った。